The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 永田翁追憶談 |
| Author(s) | 土屋, 元作 |
| Citation | 懐徳. 1927, 6, p. 59-62 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/88748 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

れ、或時は研究のため支那に遊ばんことを思ひたゝれた。しかし此支那行に就ては碩園博士や永田翁が特に君の健康を憂へて容易に同意しなかつたのであるが、君自身は寧ろ不服で左程に心配せぬほどに元氣でありました。又懷德堂の講義が夜分であるから、玉出から堂まで遠い夜路を毎日通勤することは强健な人でも相當な苦勞であるが、君は謂ゆる罅のいつた身體でありながら一たびも之れを厭ふやうなことを訴へず、或時は歸途私の宅にまわられ、懷德堂の事に關して夜の更けるまで相談せられたことも屢ありました。かやうに君は至極健康であつたから、圖らずも、宿痾の再發と思はるゝやうな病氣で歿せられたのは寧ろ私には意外に思はるゝやうで誠に殘念の至りであります。

# 永田翁追憶談

土屋元作

（編者云ふ、左の談話は去る七月八日中央電氣倶樂部並に電氣協會主催の永田、片岡兩翁追憶談會席上に於て筆記したるもので茲に演者の校閲を請ふて登載することにした。）

皆さん、私は御指名を蒙りまして、此處に出ましたけれども、不幸にしてこのお二人の方には親しく

教を受ける機會がありませんでした、お歳も大分違ひます。片岡さんは無論私より遙に上の方であります。永田さんも餘程の御老人と思ふて居りましたので、余り親しく教を受けたことがないのであります。然るに最后にお目にかゝつた時に偶然お尋をしたら、豈圖らんや私より僅か三つほか御上でなかつたのであります。老けてみへられたのは、私共より世の中に餘程澤山經驗を積で居られたものであると思ひます。色々教をうけておけばよかつたと思ひます。斯う云ふわけで今日は何も申上げることはございませんと言ふて引込んで好いのでありますが、折角御指名下さつたことでありますから、一寸永田先生に關して一つ感じたことを申上げて、諸君のお聽きを願ふて置かうと存じます。そして其事を申上げますれば矢張片岡先生のお德をも稱するわけになるものと思ひます。

吾々新聞記者の中には永田先生のことを圓滿居士、仲裁居士なぞと書いたものがあります、私共の新聞にも隨分惡いことを書いたこともあります。私が書いたのではありませんけれども、誠に矢禮な記事が出たこともあります。實は私は先生とは謠の會で久しい前からお近付になり、其後又懷德堂のことでお近付きになつたのであります。先生は懷德堂に五萬圓の御寄附をなさつて漢學を奬學されて居られます。何れ孔孟の道といふやうなことで精神を固めて居られることゝ考へて居りました、然るに世間の評判になつた圓滿居士、仲裁居士いふやうなお働は、私は却つて老莊の方であらうと思ふのであります。勿論御若い時から漢學がお好きで、御研究になりましたことは何れ孔孟の書であつたらうと思

ひますが、老莊の方も少しおやりになつたのではないかと考へます。といふのは彼の易の書は近來老子の思想と申事になりました、其易の四德は元亨利貞といふものであります。元は善の長ずる也、亨は嘉の會する也、利は義の和する也、貞は事の幹たる也、斯う云ふことであります。永田先生の圓滿居士、仲裁居士の本は元亨利貞の中の亨と利であらうと思ひます。亨は嘉の會する也、嘉といふことが一所に出會ふて、少しも差支へなく行なはれるものが亨である。利は義の和する也で、義が互に相讓歩して和睦することである。先生はこの二つを好く行なはれたものであつたやうに思ひます。皆さん私共が道を歩きます時十文字の所に出れば、どつちへでも行かれます。向ふから來る人も其通りである、是即嘉の會する也であります。所が一本道を兩方から進んで參りますとそこに衝突が起る。向ふも讓らない、此方も讓らない。とするとどうしても通る事が出來ない。それを兩方に說いて体を横にして摺り違はせるのが仲裁居士のお働であると思ひます。是は即ち利は義の和するなりであります。

餘計な事を申しますが、日本經濟叢書に收められた海保青陵の『經濟談』に、商人たるべきものは三分一の見切の術を心得て置くが好いとあります。それは一体どう云ふことかと云ふと、例へば貸金である、捨てゝおいても取れるといふ金がある。世話をやけば取れるといふ金がある。幾ら世話をやいても取れぬと云ふ金がある。其の幾ら世話をやいても取れぬ金を取らうとするから嫌な爭が起る。三分一を見切つて幾ら世話を燒いても取れぬ金を棄て、サッサと先へ仕事を運んで行けと云ふのが見切

の術であります。一本道を兩方から進んで讓らねば突當つて喧嘩になる彼の川崎大倉の訴訟の如き兩方から讓らないから何時までも問題解決せぬ。それで傍から捌いてどうしても取れぬところで見切り、又どうしても渡さねばならぬもので渡させれば、直ちに圓滿に亨るのであります。永田先生は三分一見切の術をよくお心得になつたことゝ思ひます。海保青陵は是卽ち老子の秘傳であると言つて居ります。易も老子であり三分一見切の術も老子であると致しますと、先生が圓滿居士、仲裁居士と云ふ名まで取られた世の中を救ふ道は、則ち老子の道德に基くと言ふて差閊ひありますまい先生は懷德堂の理事長で色々世話をなさいました、懷德堂の本領は朱子でありますから、即ち孔孟の方であります。併し今日現在西洋哲學なども講義して居ると云ふやうな有樣であります。永田先生も大方老子莊子の如き書を參考になされ、右申す如き圓滿なるお働をなされたものと思ひます。此圓滿は獨り永田先生に屬するのみならず、片岡先生が大勢の方からお慕れになるのも、矢張り同じやうな所がおありになつたからだと思ひます。これは永田先生の大德の一端に過ぎませんが、私の一寸感じました所を申上げて、諸君の御參考に供します。

（藤塚誠二筆記）